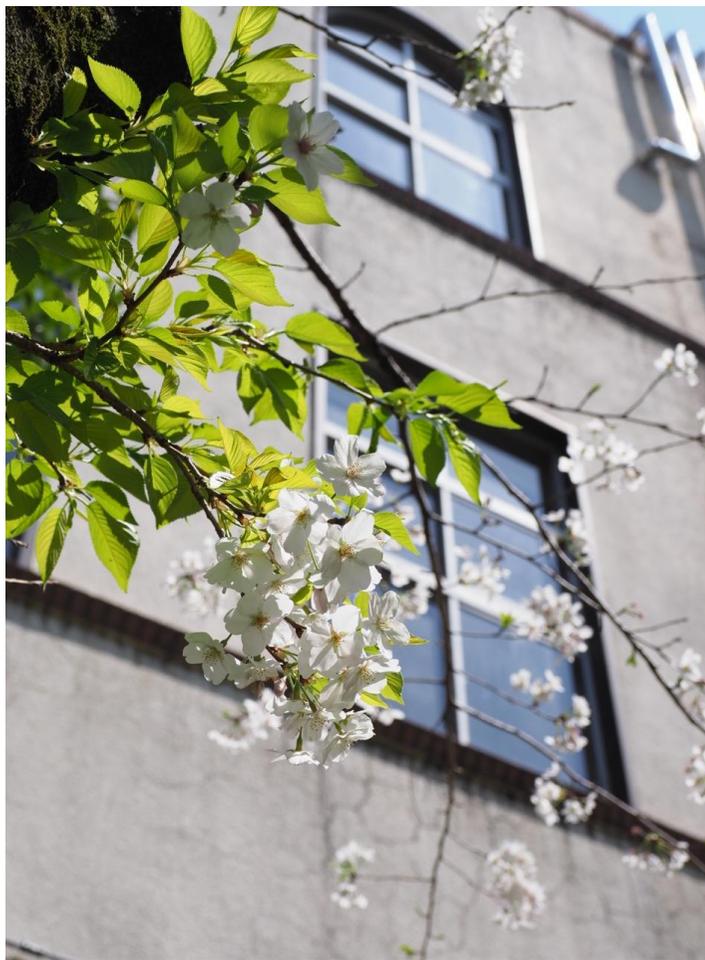


# 東京学芸大学附属高等学校



## 教育方針

- 1 清純な、気品の高い人間
- 2 大樹のように大きく伸びる自主的な人間
- 3 世界性の豊かな人間



## 世田谷地区の附属学校の特徴

新しいリーダー養成のための教育プログラム形成



## 現代の社会状況

- 1 少子高齢化
- 2 経済と社会のグローバル化
- 3 AIをはじめとする科学技術の急激な進歩
- 4 国際情勢の不安定化



## 教育目標（グラデュエーションポリシー）

多様な分野でイノベーションを引き起こし、国際社会に貢献する人間の育成

# 1 カリキュラムの特色

## (1) 生涯学習者の育成

生涯学び続ける姿勢を育成し、自ら学んでいく「方法」を習得させる。

1年生と2年生全員が、探究活動でエージェンシーを育成する。

## (2) 情報収集・分析・課題発見能力の育成

1人1台パソコンで全ての教科で ICT を活用する。

## (3) 多様性を活用する力の育成

タイの姉妹校をはじめ、他国の学生・生徒と対面やオンラインで共同研究を行うなど、共に学び・作業する過程で異なった文化・価値観の理解を図る。

## (4) 『本物教育』、実験実習とフィールドワーク重視

2年生まで全教科・科目必修（芸術科以外）で文理融合のリベラルアーツ重視の教育を行い、幅広い教養を身につける。

また、1、2年生は全員が、探究活動で自分の興味にしたがって、さまざまな課題を研究する。この探究活動によって、エージェンシーを育成する。

地理実習、野外実習、現代劇鑑賞、古典劇（歌舞伎）鑑賞、理科の実験観察等、あらゆる教科・科目で『本物』に触れる教育を展開。

3年生では、各自の進路希望に応じて、多様な科目の選択肢がある。



地学野外実習 城ヶ島



地理実習 皇居周辺



化学実験 ほぼ毎週

## 2 進路指導

### (1) 普段の授業と受験勉強を乖離させない

模試の結果による分析会と教員研修により、普段の授業に真摯に取り組むことが、受験の実力を養うことになる授業を工夫。各時期に目標を決めて模試に取り組み、その結果で学習方法などを振り返る。

### (2) 長期休業期間やテスト前の講習・補習と自習室

1 年次での基礎基本徹底のための補習、大学受験を意識した長期休業期間中の講習を実施。一般の最終下校時刻1時間後まで開いている自習室を設置。

### (3) 先輩によるキャリア教育と各種ガイダンス等での進路指導

多様な分野で活躍する先輩による講演会を実施。

また、医師や教員の実態と進学を探るガイダンスや海外大学進学を検討している生徒向けのガイダンス実施。

### (4) 2023年の合格実績

- ① 東大、京大、東工、一橋大、国公立大医学部医学科 現役で 43
- ② 国公立大医学部医学科（自治医大、防衛医大含む）現役で 16
- ③ 早慶上智理科大 現役で 222（重複あり）

## 3 行事と部活動、生活指導

### (1) 自主的主体的で、プライオリティ重視の行事

文化祭をはじめ行事は原則生徒が企画立案実施、教員は安全に配

### (2) 学習との両立重視の部活動

90%近くの生徒が部活動に参加。

### (3) いじめ防止と悩みを抱えた生徒への支援

- ① 匿名通報システムと記名式アンケート
- ② SC が週3日カウンセリング
- ③ ネットパトロール実施



林間学校（妙高高原） 辛夷祭（文化祭） 3年演劇



部活動の様子

## 5 研究活動

### SSH3期目 研究開発課題「生徒エージェンシーを育む次世代理数カリキュラムの開発と普及」

新たな理数カリキュラムを開発・実践・普及させることを通して、生徒エージェンシーを育み、次世代の科学技術社会で活躍する人材を育成する。(1)教科融合・連携による授業開発、(2)探究活動、(3)国際交流、(4)SSH特別授業、の4つの事業を中心に活動する。

#### (1) 教科・科目連携、融合

探究活動も含めた多くの教科・科目で教科融合・教科連携を実現させ、日々の授業と探究活動の接続を良くし、本校のカリキュラム全体の質を向上させる。次世代人材のための教科融合・教科連携での授業開発の実践を通して資質・能力の育成を目指す。

#### (2) 探究活動

1年次の「SSH探究基礎」では、探究活動の基礎となる資質・能力の育成を目的に、少人数のグループワークで探究の手法を学ぶ。

2年次の「SSH探究」では、自ら設定したテーマについて探究を進め、試行錯誤を重ねながら、より多様な資質・能力の育成を図る。

3年次の選択科目「発展SSH探究」では、2年次に探究したテーマをさらに発展させ、より深い探究活動に取り組む。

成果はSSH生徒研究発表会や国内外の専門学会での発表、科学賞への論文投稿などを通じて発信する。

#### (3) 国際交流

タイ王国・プリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール・チェンライ校（PCSHSCR）との研究交流（1月に本校生徒を派遣し、4月にはPCSHSCR校の生徒を受け入れる。双方でScience Fairを実施。オンラインでの共同研究「STUDENTS' JOINT RESEARCH」も実施。）を行うほか、2年次の学習旅行に探究発表の機会を組み込み、英語でのプレゼンテーションを行う。

さらに、国内外の学校との研究交流や国際発表の機会を活用し、生徒の探究活動の質を高める。

#### (4) SSH特別授業

科学技術の新たな知見に触れたり、通常の授業では体験できない実験を行ったりする機会を提供する。

また、共通の興味・関心を持つ生徒が集まり、探究活動を継続的に進める場ともなる。

外部の研究者・専門家を講師として招き、校外の多様な人々とつながる学びを重視する。